

携帯音楽プレーヤー

SMH10のジャックに音楽プレーヤーを接続しておけば、SR10からの音声信号があると自動的に音楽がミュートされる



SMH10

インターコムとSR10はハンズフリープロファイルで接続される。SR10に接続した機器の音声が入ると自動的にミュートされ、モノラルで聞こえる



Bluetooth接続

Point 1 機能解説

音声入力専用の端子でナビやレーダー探知機などを接続

SR10の接続ポートは無線機用1系統と、外部入力用2系統、Bluetoothで接続する携帯電話用1系統。また、外部入力ポート2は、専用接続ケーブルを使えば、携帯電話を有線接続できる。SR10でとめられた音声はSMH10で聞くとモノラルになるため、外部入力にはナビやレーダー探知機などのモノラルの音声ソースを接続し、ステレオの音楽はSMH10でBluetooth接続で聞くのがいい

AUX(外部入力)ポート1

音声入力ライン用のφ3.5mm3極フーンジャック。音声入力専用の端子で、ナビやレーダー探知機などの音声ラインの接続に最適



双方向無線機用DINポート

無線機を接続するための6極ミニDINジャック。メーカーごとに対応した別売のケーブル(PPOINT2参照)を使って無線機と接続する



Bluetooth接続

携帯電話

SR10には1台の携帯電話をBluetoothで接続可能。音声着信の操作はSMH10側でできる



AUX(外部入力)ポート2

音声入出力ができるφ3.5mm4極フーンジャック。外部からの音声入力のほか、専用の携帯電話接続ケーブルを使えば接続できる



Point 3 取付方法

SR10は防滴設計なのでハンドル周りへの取付けも可能。その場合は付属のマウントキットを使ってハンドルバーなどに取付ける。またクリップキットを使えば、ウェアのベルトやポケットに装着が可能だ。ユーザーのバイクやトランシーバーに合わせた使い方ができる



ウェアに装着

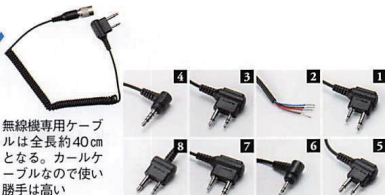
クリップキットでウェアに装着。バイクと並べてワイヤレスで無線が使える

バイクに装着

付属の有線PTTボタンケーブルをハンドルグリップに装着。ハンドルから手を離さずにPTTボタンで送受信操作ができる

Point 2 オプション

SR10と無線機の接続には、オプションの無線機器専用ケーブルを使う。無線機のメーカーごとに7種類のコネクタと、コネクタを自作できるリード線がむき出しのケーブルを用意。サードパーティのケーブルを利用すればFTM-10Sにも接続可能



無線機専用ケーブルは全長約40cmとなる。ケーブルの使い勝手は高い



右) 一般携帯電話、スマートフォン用接続ケーブル4極 / 1512円 左) ノキア携帯電話用接続ケーブル / 1512円

- 1) ICOM用2ピン変換ケーブル 2) 無線機カスタム接続用オープンエンドケーブル 3) ミッドランド用2ピン変換ケーブル 4) Vertex Standard 用1ピン変換ケーブル 5) モトローラ用2ピン変換ケーブル 6) モトローラ用2ピン変換ケーブル 7) ケンウッド用2ピン変換ケーブル 8) ICOM、ミッドランド用ストレート2ピン接続ケーブル。価格はすべて3348円

以前使っていた無線機がインターコムで復活する！
今こそ、仲間と走るツーリングでのコミュニケーションにはインターコムがあるが、以前はライダー同士で会話する手段はトランシーバー(無線機)しかなかった。それだけに、今でもマストツーリングの機会が多いライダーを中心に愛用者が多い。ただ、トランシーバーは無線機本体とヘルメットをつなぐケーブルが煩わしい。
そんなトランシーバーをワイヤレスでインターコムに接続できるアダプターが「SR10」だ。SR10と無線機を専用ケーブルで接続すれば、無線の送受信音声をBluetoothでインターコムに転送してくれる。また、外部入力端子に接続したナビや、Bluetoothに接続した携帯電話の音声を無線の音声と一緒に聞くこともできる。
オーディオミキサーの役目もする。音楽プレーヤーの音声をインターコムで聞けるようにするアダプターはけっこうあるが、無線機に対応したトランスミッターはこのSR10くらいしかない。無線を中心に、携帯電話、音楽プレーヤーなど、あらゆる音声ソースをセナのインターコムで使えるSR10は、まさにバイクコミュニケーションの中核と言えるアイテムだ。

トランシーバーがワイヤレスで使えるオーディオの中核



SENA SR10

価格:2万7216円
サイズ:横52mm×縦108mm×奥行29mm
重量:81g
通話時間:12時間
通信距離:10m